

— ごあいさつ —

会長 佐々木正憲



令和6年度定期総会併せて新入会員歓迎会には、多くの会員の皆様にご出席いただきありがとうございました。

令和5年度、定年延長により役職定年制が導入され、60歳から原則非管理職（特例により管理職として勤務可能）として勤務することになるなど退職者の皆様の生き方は多様化していきます。退職校長会は、今まで取り組んできました活動を大切にしながらも変化に柔軟に対応し、より社会に関わりをもちながら活力ある所沢市退職校長会を目指していきたいと思っております。本年度もよろしくお願いいたします。

My Note

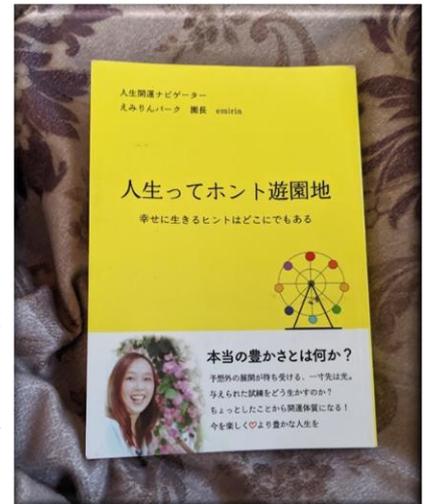
会員の皆様の趣味、活動や楽しく過ごされている様子等を掲載させていただきます。皆様の寄稿をお待ちしています。

「40年振り、教え子の再訪」

深田登志子

定年退職後私学で10年、合わせて48年間の教職歴。良く続いたものだ。最近、時々、教え子から連絡がある。

先日も、小5で担任した教え子から、1冊の本と手紙が届いた。初めて本を出版したとのこと。題名は、「人生ってホント遊園地」〈幸せに生きるヒントはどこにでもある〉と副題がついている。あの子が本を出すなんて…、驚きと嬉しさが入り混じる。本によると、高卒、19歳で結婚、5年後、3人の子供を抱えて離婚。今は4度目の結婚をし、孫にも恵まれ、幸せに暮らしていることが読み取れる。コンビニやガソリンスタンドでアルバイトをして生計を立てていたこともあったが、その後運輸会社に20年余り勤め、2021年から人生開運ナビゲーターや執筆業等をやっているとの事。



衝撃的な経歴に、吃驚した。だが、手紙のしっかりした字と文章を見ると、苦労と共にそれを糧にして成長してきたことと、確かな学びを積み重ねてきた証が見て取れる。

文中、小5の夏休みに、1学期やりきれなかった漢字の課題をやるために、我が家に通ったことなども書かれている。子供の頃、今で言うヤングケアラーだったこと、幼い弟を保育園に送った後、先生の家（我が家のこと）に通うのがとても嬉しかったこと、通知表はオール3だったことなども。

私の教え子のこの著者が、つい先日、我が家に訪ねてきた。何と40年振りである。連絡をもらった後、果たして面影があるだろうか心配だった。しかし、話し始めると直ぐに昔の感覚が蘇ってきた。私の手打ちうどんの昼食を食べながら、あたかも教室での放課後の雑談のような気分で、瞬く間に時が過ぎた。今の良人のことを「神様が決めていたパートナーにやっと会えた」と真顔で言う彼女に、「あら あら、ご馳走さま」と茶化したが、やっと仕合わせを掴んだことを感じ、とても嬉しかった。

駅に向かう後ろ姿を見送りながら〈教師としてかかわった自分は、彼女の人生にどういう役割をしたのだろうか？〉と自問自答したが、確かな答えは見つからない。

今、学校は！

所沢市で取り組んでいる教育活動を紹介します。今回は所沢市立柳瀬中学校の取組です。

「生徒が自ら学び、互いに認めあう授業づくり」を目指して 所沢市立柳瀬中学校 校長 猪口 茂

令和5年度、柳瀬中学校では「生徒が自ら学び、互いに認めあう授業づくり」をテーマに、学校課題研究に取り組みました。新年度が始まり、新しいメンバーで顔を会わせてまだ日も浅い4月4日、東京大学名誉教授の佐藤 学先生をお招きし、「学びの共同体」についてのご講演をいただきました。「教師が一方向的に教え込む一斉授業から、ともに学び合う授業へ」そのために、「4人グループでの活動」を基本に「学びの過程を大切にする」「どの意見も尊重され、誰とでも学び合うことができる授業を」佐藤先生が語る授業の姿はとても魅力的でした。



第1回校内研修(4月4日)

一方、そうした授業をつくるために、どう取り組めばよいのか疑問だらけで始まった研究でもありました。本校職員皆で佐藤先生の書かれた書籍を読んだり、順番で研究先進校へ研修に出かけたり、公開授業研究会を開いて指導をいただいたりしながら、研究を続けてきました。

ご指導いただいた視点を基に、その後授業改善を行い、各学年、各教科で試行錯誤を重ねて日々の授業実践に取り組みました。1年間研究を続ける中で、これが年度当初に佐藤先生が言われていたことかもしれない。そう思える場面も見られるようになってきました。他にも研究の過程でうれしいことがいくつかありました。



第1回公開授業研究会

◎6月の第1回公開授業研究会で3年数学の授業を見た佐藤先生から、「この授業の取り組みをぜひ全国の先生方に紹介したい」というありがたいお誘いをいただきました。

授業を担当した中村教諭が、1月6日大阪で行われた「学びの共同体研究大会」に参加し、実践発表をしました。全国から集まった200名を超える熱心な先生方の前で発表するのはとても緊張したそうですが、本校職員にとっては大変貴重な経験となりました。



第3回公開授業研究会

◎1月に行った第3回公開授業研究会では、小学校の先生方や他県・他市の先生方、約30名の先生方が来校しました。そこで校種や市町村の異なる先生方の様々な考え方に直接触れられたことは、本校職員にとって思考を広げるとてもよい機会となりました。

参観した先生方からは「生徒がよく対話していて、『解らない！どうやった？』と自分ができていないことを口に出して友達に聞ける環境がよかったです」など、心温まるご感想をいただきました。

さらに、本校職員から研究実践を踏まえ、次のような感想が出ました。

○私が工夫したことは、1人では解くことが難しい課題を設定したことです。定期テストで60点以上とる生徒が何とかできるだろう、それに満たない生徒は難しいだろうと思われる記述問題を多く設定したことで、自然と会話が生まれていました。

○生徒はやるべきことが明確になっているときは、集中して取り組むことができることが学びの共同体をとおして知ることができた。

○男女市松模様での座席なので最初は教員も生徒も違和感がありましたが、男女仲良く学び合うことができていると思います。基本4人班なので教材や道具が必要となりますが、少人数なため生徒の活動が増えたように感じます。

○ジャンプの課題設定が難しく、ときには難易度が高すぎてクラスの数人しか解けないこともあり、何人かの生徒が諦めてしまう瞬間がありました。ただ、周りの生徒の助けで再チャレンジする姿や班で協力して問題に取り組んでいる姿も見られ、この授業スタイルを続けることで粘り強く取り組む姿勢も身に着いてきたのではないかと思います。

今後も本校職員とともに、柳瀬中学校の生徒達が主体的に学習と向き合えるよう、工夫した活動を展開していきたいと思っています。

教育推進研究協議会

令和5年11月10日（金）所沢市ベルヴィ ザ・グランで令和元年度（令和元年度は、入間地区教育推進研究協議会との同時開催）以来、4年ぶりに行われました。



今年度から、同一会場での全体会・分科会・懇親会の開催となりました。全体会では、所沢市立小手指小学校の徳増由美子校長から教育実践『真（しん）の学び舎（や）は子供が主役～今年の合言葉は「笑顔いっぱい さあ、いこう！！」～』の提案がされました。これまでの成果と今後の課題等についての素晴らしい発表がありました。

その発表を受け、各テーブルで現職校長と退職校長会会員で意見交換を行い、全体発表を深めました。

その後の懇親会で、現職校長との交流と懇親をさらに深めることができました。

祝 令和5年度受章・長寿祝賀会併せて忘年会



令和5年12月9日（土）ベルヴィザ・グランで「受章・長寿祝賀会併せて忘年会」を行いました。小野塚市長・中島教育長はじめ多くの来賓の方々をお迎えして、盛大に開催することができました。

瑞宝双光章 大岩 幹夫様

瑞宝双光章 青木 朋江様



【令和5年度長寿祝者】

会より、受章者・長寿祝者に記念品が贈呈されました。

《米 寿》 青木 朋江 様

《喜 寿》 清水 正文 様、富田 常世 様、国井 益美 様、小森 金吾 様

※会員の方々からのメッセージ・・・

受章・ご長寿の皆様おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。これからも健康でご活躍されますことをお祈り申し上げます。皆様が続くよう、元気に過ごしたいと思います。

会員研修会

退公連共催事業



令和6年1月25日（木）に退職公務員連盟所沢支部会と所沢市退職校長会の共催による会員研修会が実施され、28人の会員が参加しました。

講師は、医師で『百寿はそんなに目出度いことか』の著者でもある佐々木 学 氏で、演題は「人生最期の良い迎え方」でした。佐々木氏は名古屋大学理学部を卒業して8年間高校教員を務めた後、名古屋大学医学部に再入学し、卒業後4年間の研修を経て、長野県の中条村、泰阜村、売木村、茅野市などの診療所等で地域医療に尽力されるという異色の経歴をお持ちの方です。

講演では、医療現場での佐々木氏の豊富な経験に基き具体的な事例を挙げながらお話しいただきました。『自宅で最期を迎えたいと望む方は大多数であるのに、それを実現できるのはほんの一握りである。医学の進歩によって、延命に関しては確実に技術が向上しており、病院に入院して処置をすれば死期を遅らせることができるが、それが本人にとって本当に良いことなのか』『本人も同居の家族も自然な最期を望んでいるのに、離れて暮らす親族などの意見で延命措置をすることになってしまうのはどうなのか』など、終末期医療の望ましい在り方について、たいへん考えさせられる内容でした。

講演の後には講師がお持ちのご自身の著書『百寿はそんなに目出度いことか』を10人の会員が購入して帰られました。

落語鑑賞教室

退公連共催事業



令和6年2月10日（土）【東京】紀尾井小ホールにて（2月 国立演芸場席）を鑑賞しました。大きな笑い声につつまれました。



千秋楽だったので、真打昇進4人全員の落語と襲名披露口上がありました。

【参加者の声】・初めて落語鑑賞教室に参加させて頂きました。国立演芸場寄席真打昇進襲名披露公演ということで、何が行われるのだろうと期待で一杯でした。

会場に入って少しすると、前座の若手落語家が登場し場を盛り上げてくれました。そして、13時いよいよ開演、女性落語家、ベテラン落語家と続き、漫才をはさみ真打二人の落語が行われました。仲入りの後、真打昇進4人の襲名披露口上がありました。その後、真打2人の落語の間には曲芸も行われ、本当にあっという間の2時間ほどでした。久々に大きな声で笑い、楽しい一時を過ごすことができました。企画・運営してくださった担当の方々、本当にありがとうございました。次回も、ぜひ参加したいと思います。

帰りのロビーで、新打の二代目柳家平和さんと写真を撮りました。



令和6年度定期総会



小野塚市長・中島教育長等6名の来賓の方々をお迎えし、令和6年4月13日に、所沢パークホテルにて、定期総会が開催されました。次の議題が慎重審議され、承認されました。

- 議事(1) 令和5年度事業報告並びに決算報告
 (2) 監査報告
 (3) 令和6年度事業計画(案)並びに予算(案)

総会終了後、令和6年度新入会員歓迎会が実施されました。4人の新入会員の参加のもと楽しいひと時となりました。

主な事業計画

ご参加をお待ちしています。

事業名	期日	会場等
研修親睦旅行（退公連共催）	R6.6.4～5	新潟方面
歌舞伎鑑賞教室（退公連共催）	R6.7.6	ティアラこうとう
ところんのびのび塾	R6.7.下旬～8月上旬	学校教育課事業へ協力
「私も元気です展」（退公連共催）	R6.9.19～21	所沢市役所・市民ギャラリー
日帰りバス旅行（退公連共催）	R6.10.10	方面未定
所沢市教育推進研究協議会	R6.11.1	市民文化センターミュージズ
落語鑑賞教室（退公連共催）	R.6	期日・会場未定
受章・長寿祝賀会併せて忘年会	R6.12.7	所沢パークホテル
会員研修会	R7.1.23	所沢市立教育センター

令和6年度本部役員

本年度より研修担当に村川裕昭氏が入りました。



会長
佐々木正憲



副会長
羽田禮子



副会長
鈴木良明



副会長
内野正行



幹事
齋藤敏男



庶務幹事
丸山昇



庶務幹事
小島浩司



庶務幹事
青木章次



副幹事
川音孝夫



庶務幹事
村川裕昭

令和6年度理事

理事会等で、たいへんお世話になります。

加藤匡代
北澤清勝
和田明広
◎内野正行
◎川音孝夫
◎印は令和6年度入間地区理事

◎小峯昌一
嶋田恵一朗
◎鈴木良明
志村武保
◎齋藤敏男

大岩征子
菅野俊臣
◎青木章次
粕谷一雄
横須賀邦子

田村征雄
◎佐々木正憲
遠藤尚之
村川裕昭
長岡伸一

村松昌男
大川光子
吉田正
本橋正自
佐藤佳岳

羽田禮子
須藤とく子
◎丸山昇
小島浩司

新入会員を紹介します

☆以下のインタビュー項目に答えてもらいました。

- (1) 最終勤務校
- (2) 退職した時の気持ちは？
- (3) 現在は何をしていますか？
- (4) 今後の抱負

今年度よりの地方公務員段階的定年延長開始にあたり、退職校長会への入会対象は以下の通りとなっています。

- (1) 当該年度内に満60歳になり年度末で役職定年を迎える校長
- (2) 定年ではないが、校長としての職が終わる方
- (3) 定年前に退職した方
- (4) 中途退会した方

米澤 三八子 (ヨネザワ ミヤコ)

- (1) 所沢市立美原小学校
- (2) 38年間勤めた教員生活から離れ、新しい生活スタイルが始まりました。学校とは違う時間の流れに戸惑う毎日ですが、朝1時間出勤が遅くなった分、弁当作りと徒歩通勤を開始しました。
- (3) 所沢市立教育センターで電話相談員として勤めています。
- (4) これからも健康第一にワークライフバランスを大切にしながら、所沢市の子供たちや先生方の下支えができれば、と考えています。退職後も生き生きと輝いていられるように、諸先輩方に秘訣を伺いたいです。



河野 公子 (カワノ キミコ)

- (1) 三芳町立三芳小学校
- (2) 何とか校長職を終えられたことへの感謝、安堵、少しばかりのもの寂しさ。これまでご指導ありがとうございました。
- (3) 教諭として市内6校の外国をルーツにする児童への日本語指導をしています。
- (4) 定年退職まで残された一年、改めて「初心忘るべからず」で子供たちのために頑張りたいと思っています。



五十嵐 和彦 (イガラシ カズヒコ)

- (1) 所沢市立宮前小学校
- (2) まだ60歳という実感がありません。
- (3) 宮前小学校校長
- (4) お仲間に入れていただき、ありがとうございます。健康第一で過ごしたいと思います。少し横幅が縮まるよう、体を動かしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。



内山 直樹 (ウチヤマ ナオキ)

- (1) 所沢市立林小学校
- (2) 定年が1年先延ばしとなり、嗚呼…もう少しの間頑張らないといけないのか…という気持ちです。
- (3) 林小から三ヶ島小に特例任用校長として異動し、お世話になっております。
- (4) 心身の衰えをどうするか…「60歳からはやりたい放題」和田秀樹さんの本を読んで実践していきます。



熊本 純利 (クマモト スミト)

- (1) 所沢市立北野中学校
- (2) 最終日は日曜日だったのにずっと学校で片付けをしていて、学校を出た時は次の校長先生への引継ぎに漏れがなかったか心配でした。
- (3) 上山中学校で主幹教諭をし、3年生と特別支援学級で国語を教えています。図書委員会とテニス部副顧問も任されています。
- (4) オンとオフを上手に切り替えて、オフの時には仕事を完全に忘れる生活をする。



【編集委員】(委員長)丸山 昇 (委員)佐々木正憲、鈴木良明、内野正行、齋藤敏男
◎寄稿、ご意見や要望等がございましたら 編集委員までご連絡ください。